

地域の支えあい活動や介護予防活動をご紹介します

見~つけた!

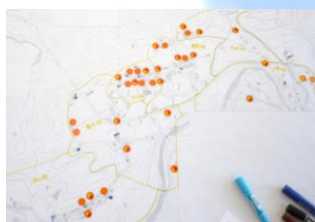
地域の活動



Vol.22

2018年5月発行

支えあいマップから始まる地域の支えあい活動 大用地区健康福祉委員会の取り組み



今回の地域のいきいき活動は、大用地区健康福祉委員会が行う支えあい活動についてご紹介します。

大用地区は、中心市街地から車で20分程の場所にある地区で、約110世帯250人が生活しています。大用地区健康福祉委員会では、介護予防・健康推進のための事業のほか、支えあい事業にも取り組んでおり、協力員同士が連携しながら日々の見守り活動を行っています。

大用地区の支えあいの地域づくり事業は、支えあいマップを作成することから始まりました。支えあいマップは「誰に」「どのような」見守りが必要か、今の地域の状況はどうなっているかを誰が見てもすぐに確認できるすぐれものです。住宅地図を広げ、地域住民であればだれもが当たり前知っている住民情報をマップに落とし込んでいきます。



大用地区では、見守りをする対象を選定することを目的にマップを作成しており、作成したマップをもとに地域の協力員が日常的な見守りを行います。

訪問するだけではなく、普段からある近所づきあいの中での見守りを心がけており、自身の散歩や外出がてらに挨拶をし、会話を楽しんでいこうです。最近姿を見かけない、会話に元気がなくなったなど、気になることがあれば、地域包括支援センターなどの専門機関につなげるなどの対応をしています。

その他にも、大用地区健康福祉委員会では高齢者の生活支援や小中学生との交流事業、孤食防止活動などを行っています。事業をまとめる責任者の方は、「地域のみんながこれからも大用で住み続けていけるような地域の支えあいの体制づくり、地域づくりに取り組んでいきたい」と力強く語られています。